



研究の“森”から

No.157



金山杉の「地産地消」による山村振興

— 山形県金山町を例に —

金山町では、大工・工務店が、地域の森林から安定的に供給される地場産製材品を使って地域の景観・環境にふさわしい家を建てるというローカルな木材の生産・流通構造、すなわち金山杉の「地産地消」が成立しています。この「地産地消」が、①地域の木材に、より高い付加価値を付け、②林業・製材・大工など地域の雇用を守っています。

本研究では、その効果を検証し、「地産地消」が成立している背景を探りました。



金山の街並み



樹齢100年をこえる金山杉

金山町の概要

金山町は、羽州街道沿いに開けた宿場町で、山形県の北東部最上地域に位置します。

1878年7月、東北、北海道を旅する途中立ち寄った英国地理学会特別会員イザベラ・バードは、金山町のことを「非常に美しい風変わりな盆地、山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向かう通行をすべて阻止しているように見えるピラミッド形の丘陵の麓にある町、ロマンティックな雰囲気のある場所」（イザベラ・バード、2000年、「日本奥地紀行」、高梨健吉（翻訳）、平凡社ライブラリー）と紹介しています。

美しい街並み景観づくり

金山町では、美しい街並みを目指した景観づくりが、1963年から現在に至るまで、継続して進められてきました。1986年には「金山町街並み景観条例」が制定され、条例に定める「街並み形成基準」に建築内容が合っていれば、「金山型住宅」と認定され、町の定める助成率（住宅建築の場合、掛かった経費の1/3、上限は50万円、1996年までは上限30万円）で、助成金が交付されます。

金山杉の「地産地消」の成立

1軒当たりの新設住宅床面積を約200m²、建坪1m²あたり製材品が0.25m³使用されるとすれば、1軒に50m³の木材が使われる計算になります。金山町の2002年度木造住宅工事届出件数は29件、合計1.5千m³の製材品が使われていることとなり、金山杉製材品の町内供給量が2.0千m³ということから、残りの0.5千m³が住宅以外に使用されていると考えれば、金山町では、杉を使うことのできる部材の殆どが金山杉製材品を使って建てられていることになります。



金山型住宅

屋根は切り妻、色はこげ茶または黒、外壁は真壁造り、しっくい等の塗り壁、色は白または土壁仕上げ及び杉板張りで生地色またはオイルステン色

金山町経済を支える金山杉

金山町経済の特徴を知るため、産業連関分析の手法により187に分類した町内産業のそれぞれが地域全体に及ぼす影響力を測る指標「影響力係数」を算出したところ、係数の大きな上位15産業のなかに、素材、製材・合板・チップ、住宅建築、特用林産物の4部門が含まれました。これに対して、山形県全体について同様の解析を行ったところ、素材部門1部門が含まれたのみでした。また、各部門が地域の産業全体から受ける影響力を測る指標「感応度係数」を算出したところ、上位15産業のなかに、金山町では育林、製材・合板・チップの2部門が含まれているのに対し、山形県全体では木材関連産業に関連する部門は全く含まれませんでした。金山杉の「地産地消」が金山町経済を支える重要な役割を果たしていることが分析結果から裏づけられました。

| 金山町各産業の影響力係数（上位15産業、2000年） | | |
|----------------------------|-------------|------|
| 1 | 素材 | 1.57 |
| 2 | 畜産 | 1.24 |
| 3 | 自家輸送（旅客自動車） | 1.24 |
| 4 | 自家輸送（貨物自動車） | 1.23 |
| 5 | 製材・合板・チップ | 1.20 |
| 6 | 水道 | 1.20 |
| 7 | 事務用機械 | 1.18 |
| 8 | 電子部品 | 1.17 |
| 9 | 家具・装備品 | 1.17 |
| 10 | サービス用機器 | 1.17 |
| 11 | 住宅建築 | 1.15 |
| 12 | 穀類 | 1.15 |
| 13 | 特用林産物 | 1.15 |
| 14 | 農産保存食料品 | 1.14 |
| 15 | 生コンクリート | 1.13 |

註：金山町産業連関表（2000年）から計算した影響力係数（各産業が地域の産業全体に及ぼす影響力の指数）の値の大きい上位15産業（全187産業）。黄色は林業・木材関連産業。

| 金山町各産業の感応度係数（上位15産業、2000年） | | |
|----------------------------|-------------|------|
| 1 | 金融 | 1.91 |
| 2 | 道路貨物輸送 | 1.79 |
| 3 | 自動車修理 | 1.79 |
| 4 | 自家輸送（貨物自動車） | 1.54 |
| 5 | 自家輸送（旅客自動車） | 1.49 |
| 6 | 育林 | 1.45 |
| 7 | 小売 | 1.37 |
| 8 | 建設補修 | 1.36 |
| 9 | 水道 | 1.36 |
| 10 | その他の金属製品 | 1.35 |
| 11 | 不動産仲介及び賃貸 | 1.33 |
| 12 | 製材・合板・チップ | 1.29 |
| 13 | 企業内研究開発 | 1.26 |
| 14 | 公務 | 1.17 |
| 15 | 廃棄物処理 | 1.12 |

註：金山町産業連関表（2000年）から計算した感応度係数（各産業が地域の産業全体から受ける影響力の指数）の値の大きい上位15産業（全187産業）。黄色は林業・木材関連産業。

金山杉の「地産地消」の成立の背景

金山町住民の多くが「街並み景観条例」を知っていました。そして、「金山型住宅」が金山らしい（図1）と評価し、「金山型住宅」を建てたい（図2）と思っています。金山町の大工・工務店は、「金山型住宅」を施主に勧め、建築にあたっては、地元で生産される金山杉材を使うよう努めています。このように、金山町では、美しい街並み景観づくりと住宅建築、そして、金山杉製材品の地場利用を結びつける町民、大工・工務店、製材所、森林所有者からなる「金山型住宅建築ネットワーク」が形成されています。金山杉の「地産地消」の成立は、金山町民、森林所有者、製材業者、金山大工、そして金山町役場が連携し、金山杉を使った住宅づくりを美しい街並み景観づくりと関連づけながら実践してきた成果であり、他の地域の手本となりうるものです。

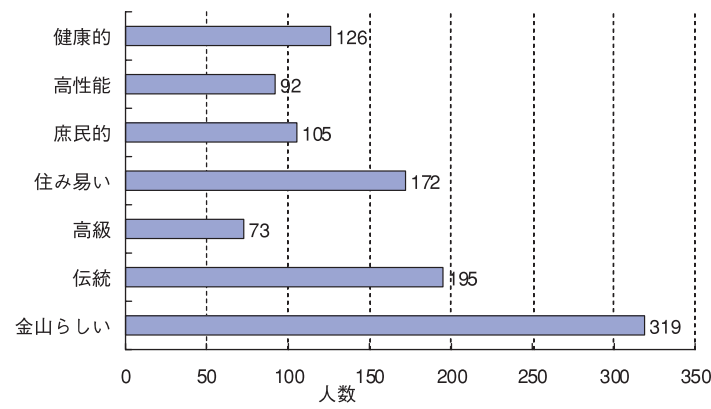


図1 金山住宅のイメージ

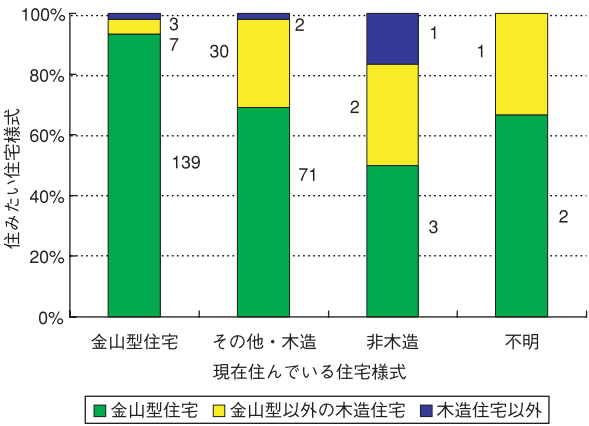


図2 現在の住宅様式ごとの住みたい住宅様式

※平成17年度日本生命財団助成研究「木材の地産地消を通じた地域経済と環境保全に関する研究」を活用した研究成果。
参考文献：金山杉の地産地消と地域社会・地域経済（山形県金山町を例に）、森林科学 第47号p41-53 2006年6月

＜実行課題＞アウa111
地域資源活用と連携による山村振興
奥田裕規、嶋瀬拓也、山本伸幸、垂水亜紀(林業経営・政策研究領域)、村松真(金山町教育委員会)、安村直樹(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部)

研究の“森”から 第157号 平成19年2月28日発行
編集発行：森林総合研究所企画調整部研究情報科広報係
〒305-8687 茨城県つくば市松の里1番地
TEL：029-829-8134 FAX：029-873-0844
E-mail：kouho@ffpri.affrc.go.jp